

さわやか

5月号

令和3年5月7日発行

これから必要な力

校長 漢野 有美子

緑が目に染みる季節になりました。大型連休はどのように過ごしたでしょうか。運動部の多くは、春季大会や練習試合等が行われました。コロナ禍で練習や大会運営にも制限がある中、これまでの練習の成果を試しながら、それぞれの部の目標に向かって頑張る姿を見ることができました。

今年度から新しい学習指導要領が完全実施となります。学習指導要領とは全国のどの地域で教育を受けても、一定の水準の教育を受けられるようにするため、文部科学省では、学校教育法等に基づき、各学校で教育課程（カリキュラム）を編成する際の基準です。時代の流れに合わせて、およそ10年毎に改訂されてきました。教科書や時間割はこれをもとに作られています。今回の改訂では、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指します。複雑で予測が困難な時代の中でも、児童生徒一人一人が社会の変化に受け身で対応するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、自ら可能性を發揮し多様な他者と協働しながらよりよい社会と幸福な人生を切り拓き、未来の創り手となることができるようにするために必要な力の育成が期待されています。この力は下に示すように3つあり、新しい時代に必要となる資質・能力です。

《3つの力》

- 1 生きて働く「知識・技能」
- 2 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」など
- 3 学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」など



そして、これら3つの力を育むためのキーワードは「**主体的・対話的で深い学び**」です。

主体的な学び

学ぶことに興味・関心を持ち、自分の将来と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組む学び。

対話的な学び

学級の仲間と目標を共有し、先生との対話や先人の考え方を関連付け、自分の考えを広げたり深めたりする学び。

深い学び

各教科での見方・考え方を学ぶだけでなく、他の教科で学んだ見方・考え方を関連付けて自分なりに答えを導き出す学び。

本校では、この3つの力をバランスよく育むために、「主体的で対話的な深い学び」の視点から教育活動を進化・深化させるための取組を進めています。生徒が「わかる」「おもしろい」といえる授業、そして、学級の仲間とともに学び合い、新しい発見や新たな課題が生まれる授業を工夫して、生徒たちに必要な資質・能力を育てています。

生徒たちに必要な資質・能力を育むためには、学校の授業だけではなく、家庭や地域の皆様の理解と協力が欠かせません。学校で学んだことを日常生活で活用したり、家庭や地域での経験を学校生活に生かしたりすることがとても大切です。ご家庭でも、学校で学んでいることに関して、お子様と話したり、一緒に考えたりしてみてください。

◇5月の生活目標 「時間のけじめと、思いやりのある行動をとろう」

休み時間に次の授業の準備をして休憩に入ることや、ベル学の大切さをはじめとした学習面はもちろんのこと、今後行われる校外学習では、時間を守ること、学級や学年の仲間を大切にする思いやりのある行動をとり、きずなを深めましょう。思いやりの心を助け合うという行動で示してください。



衣替えの移行期間 5月6日～28日 正しい身なりをしよう



◇5月の学習目標 「パッと切り換えよう」

- 授業の開始をスムーズに
落ち着いて授業が開始できるように次の授業の準備とベル学をする。
- 呼びかけにはすばやく反応
名前を呼ばれたときや呼びかけにはすばやく反応し、大きな声で返事をする。
- 活動の切り換えをはやく
一つひとつの活動への切り換えをはやくする。
大型連休や校外学習後が勝負！気持ちの切り換えを早くさせていきましょう。



～生徒会目標が決定～

「雨のち虹」

赤：明るい・思いやりの心・笑顔溢れる
 橙：挨拶・校歌・清掃（伝統三項目）
 黄：輝く・一人一人が主役
 緑：若葉・挑戦・成長
 青：青春・一丸・最高の思い出
 藍：I(アイ)・個性・可能性
 紫：ブドウ・地域・つながり



《前期生徒会役員紹介》

半年間よろしくお願ひします

○執行部

生徒会長	中田 宗次朗	書記	瀬戸 大輝	二口 晃太郎	
生徒会副会長	南出 志華	寺田 謡	会計	寺井 啓人	杉本 祐理

○委員長

生活	飯室 公康	文化	高崎 里緒	図書	舘 明里
保健体育	高尾 英志	給食	本多 航大	通信	池田 爽夏

《部活動について》

◇部活動顧問

部活動名	顧問名	部活動名	顧問名
野 球	村上直哉・佐藤隆志	卓 球	竹森恵美・地藤璃紅
サッカー	山添良太	剣 道	北野瑞季・本出正博
ソフトボール	山田章善・升田富士子	陸上競技	石井岳人・北山尚美
バドミントン	川原健太・山川京華	吹 奏 楽	山本美幸・北村菜月 岡田 正 (部活動指導員)
ソフトテニス	福島栄一・櫻井千明	創 作	山崎雅子

◇休養日 1週間のうち2日（原則：水曜日と日曜日）

◇完全下校 夏期 [4月～10月、3月]: 18:30 冬期 [11月～2月]: 18:00

◇定期（中間・期末）テスト前の3日間は、原則部活動禁止期間とします。

◇朝練習 原則廃止

※施設の都合や大会の開催等により変更する場合があります。